

会 議 要 録

会議の名称	第1回 第6次村山市総合計画策定審議会
開催日時	令和6年5月14日（火）19：00～20：30
開催場所	農村環境改善センター多目的ホール
構成員	出席者：（別紙名簿） 事務局：村山市政策推進課 受託者：ランドブレイン(株)
次第	<ul style="list-style-type: none"> ・委員委嘱状交付 1 開会 2 市長あいさつ 3 審議会委員紹介 4 会長選出（高橋 春實委員） 5 諮問 6 事務局紹介 7 議事 <ul style="list-style-type: none"> （1）会長職務代理者の指名 （2）第6次村山市総合計画等策定について （3）策定スケジュールについて （4）意見交換 （5）その他 8 閉会
質疑応答等	
議事(1) 高橋会長 委員一同	<p>会長職務代理者の指名</p> <p>村山市総合計画策定審議会条例第5条第3項により、土屋 常義委員をご指名する。</p> <p>異議なし</p>
議事(2) 高橋会長	<p>第6次村山市総合計画策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局説明 <p>事務局説明の通り承認とする。</p>
議事(3) 高橋会長	<p>策定スケジュールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局説明 <p>事務局説明の通り承認とする。</p>
議事(4) 高橋会長 安達委員	<p>意見交換</p> <p>初回にあたって各委員のご専門の立場から、順にご意見を伺っていききたい。</p> <p>建設業に携わっている観点で、今後やはり災害に強いまちづくりが大前提ではないかと思う。頻発する豪雨災害だったり、豪雪地域でもあるので、今後右肩上がりですべて災害が増えていくように感じる。今後10年、20年、30年を見越した計画を今から進めていく必要があると思う。あらゆる面で人手不足への対応も必要になる。また、空き家対策も災害面から考えていく必要があるだろう。</p>
大山委員	<p>これまで楯岡小学校PTA会長等をさせていただいてきたが、やはりこの10年間で目に見えて子供の数が減っている。学校の統廃合が進められて、子供たち、保護者、地域にとってかなり不安要素になっていると思う。これまでも子育て支援や学校への支援などはあったので、そういったところを引き継ぎつつ、さらに時代に合ったやり方等があると思うのでこれから意見していきたい。</p>

奥野委員

私自身は福井県生まれで現在河西エリアで子育てをしながら農業を営んでいる。河西エリアに関していうと、葉山中学校のそばに小学校やこども園を移転してはどうかという話もあるようで、0歳児から10代までの子供たちが一堂に会するという素晴らしい環境になりそうだと関心を持っている。

定住のことを考えると、例えばお店を出して商売するとか、農業を営んでいるといった部分が大事な要素になってくると思う。現状、この地にいる意義が農業にあると思っていて、これからの教育を考えるうえでも農業はすごく大事だと感じている。新しい学校ができるということで、そこにどんどん農業を取り入れてもらって、我々農業者も、子供たちを受け入れたりして積極的に交流できたらというふうに思っている。定住促進ということで、そういうところも取り込んでもらいたい。

藤井委員

私の出身は東京都羽村市でこの地に移住してまだ2年というところ。普段は新体操を子供たちに教えている。少子高齢化が進んでいる中でも、新体操教室にきてもらえる子供たちは増えている。なぜ生徒が増えてきたのか考えると、やはり新体操が楽しくて、みんな続けていく、それから楽しいからやらないかと友達に声をかけたりする、そういうつながりがあるから増えているのかと感じている。先程の農業の観点でも、そういうふうに家庭の中に農業があつて、農業が楽しいから続けていこう、定住しようというふうになっていくのかなと思う。若者の立場から村山市がどういうふうに、10年後進んでいけばいいのか意見していきたい。

三宅委員

私達の組織は食の安全を守り、消費者の方に安全な産物をお届けしていくということを使命としている。一方で農家の人手不足が深刻な問題となっているが、ここを諦めることなく、未来を見据えて取り組んでいくことが私達の使命と思っている。世の中の移り変わりが非常に大きいのが、皆様のご意見を頂戴しながら、未来を見据えて計画づくりに参加できればと思っている。

末永委員

私も富山県から移住してきて、ローカルインキュベーターという会社を運営している。地方に新しい事業を生み出したいという思いであったが、私も移住定住というのは必ず生業とセットになっている必要があると思っている。その地域が気に入ったとしても、自活できなければ住み続けられない。移住定住と起業みたいなものがセットになるような、そういった仕組みづくりに興味がある。また村山市内には、空き家が多くみられるが、利用できる物件は非常に少なく、独立（起業）したい人が居る一方でうまくマッチングできないケースも多い。そういった空き家対策の領域についても興味がある。

檜山委員

私が所属するものづくり産業振興会は、ほとんどの人が製造業の方だと思うが、私の経営している会社のほうは採用募集してもなかなか応募がなく、このまま若い人が誰も入ってこない、経営が成り立っていかなくなるという心配がある。村山市にどうにかして人口を増やしていただきたいのと、働く場所があり、まちに活気が戻れば、人の流出を防げると思う。皆様と一緒に村山市の活性化を考えていきたい。

土屋（治）委員

金融機関の立場から見ると、このエリア内の人口が著しく減少しており、併せて高齢化も進んでおり、皆一定のお金は持っているが、後継者とか相続する方がこの地に居ないため、他の都市部へ相続されたお金が流出している状況もある。金融機関の統廃合も進んでかなり減ってきている。我々金融機関はお金を貸すのが商売だが、今は後継者が居なくて廃業という問題が一番大きい。後継者がいなければマッチングということで

他所の同業者の方と繋げるような業務が多くなってきている。地域住民にも企業にも魅力的で、是非村山市に住みたいというようなどころにしていきたいと思う。

鷹委員

私も横浜からの移住者で令和元年に村山市に地域おこし協力隊としてやって来て6年目になる。私は農業をしに来たが、他に農業に携わりたいといった人を増やしていこうとするときに、やはりもっと農業をしやすい環境を整えていく必要があると思っている。今の農業を守りつつ、プラス α また違った農業の形を、10年後を見据えて作っていくというのが大事だと思う。市の人口を増そうとすれば、移住者をどんどん増やしていけばいいと思うが、ただ安易に移住者を増やすのではなく、どういう方に住んでもらいたいというような共通認識があるといいと思う。魅力的な市を目指して、次の10年につなげていきたい。

小畑委員

観光振興の観点で、もっとローズ（バラ）を使ったものをどんどん出していきたい。大きな施設やイベントも大事だが、もっと「村山市民」自体のファンを増やしていくことが、そのまちの魅力ということにつながるのではないかと。教育面からも、子供たちにも、自分たちが住み暮らすまちに誇りを持って、何処かに一度出て行ったとしても、やはり村山、自分が住んだまちに戻ってきて、何かをやりたいとか、自分が作っていく町だという認識を持っていてもらいたいという思いがある。第6次総合計画をもっとわかりやすい形にして、小学校や中学校で、子供たちもどんどん関われる形にしていきたい。

早坂委員

今年、徳内まつりが30周年を迎えるが、一時よりも少し陰りが見えてきたと感じている。ぜひ子供たちに徳内まつりを経験する機会を持ってもらい、ほとんどの団体は自分の地域を看板にして活動しているのでそこで経験してもらい、地元への愛着を持ってもらいながら大きくなってもらいたいと思っている。その中から村山を引っ張っていくような人材が出てきてくれればというふうに考えている。

平山委員

いろんな意見があり、自分で実現したいがなかなか自分の力だけではできないということがあって、行政に対する期待というものも感じられる。こういった計画を進める中で、やはり民間と行政の力、一緒になって計画を実現していくことが一番大事なのではないかと思っている。

策定スケジュール的にかかなり厳しいものがあると思うが、もう少しどう具体的に進めていくのか後に補足いただければと思う。

柴田委員

村山市を活性化していくためには、まずは人づくりだと思う。地域の人達皆で小学生、中学生、高校生の夢を叶えるようなお手伝いができたらいいのではないかと思う。そこから村山市のことをいつも大事に考えてくれる人になってくれて、この村山市を支えてくれるような人材を作っていければいいのではないかと。あとどうしても必要なのはお金で、そこをどう稼いでいくかを考えていかなければならない。一つ思うのは、今、太陽光発電施設の耐用年数が来ていて、これをリサイクルなり処理できる企業が足りていないと思うので、何とか村山市のほうで誘致できたらいいのではないかと。あるいは村山市独自に発電施設をつくって、市民の光熱費負担をゼロにするようなことが可能であれば、村山市に住む方々も増えてくるのではないかと。

鈴木委員

普段課題だと思っている事柄が2つあって、まず1点目は、単身者には村山市に住める物件はあるが、夫婦やファミリー世帯には物件が限られており、結局東根市や天童市に住まわれてしまっている所以对策が必要だと思う。2点目は、村山市のブランディ

ングやシティプロモーションの面で各担当の方からいろいろお仕事させていただいているが、担当者の嗜好だったり、考え方によって「村山市」の出し方が異なっていると感じているので、そこを調整などできれば村山市の魅力をより全国に伝えられるのではないかと思います。

奥山委員

計画に関してはわかりやすく、魅力的なところがはっきりわかるようなものでないと、その内容を私達も伝えられないし、他都市と差別化できないと思う。今回実施するアンケート調査の対象として高校生を加えたのは大変良いと思うが、さらに子育て世代の意見など、大事なところをしっかりと拾ってそこを伸ばすというところを視野に入れていていただきたい。

工藤委員

2つのキーワードがあると思う。1つは楽しいということ。楽しいということが教育の中でとても大事だと思う。楽しむための素材（蕎麦、バラ、まつり、自然など）がこの村山市の中には沢山ある。楽しむための方法をしっかりと子供たちに学んでもらう。そして大人になって社会を生き抜いていくための技量をしっかりと身につけていく。自分で考えて、AI やデジタル社会が進化していても、やはり自分の力で生きていけること。そういう子供たちを育てていかなければと思う。もう1つはコーディネートするというので、恰好のいい大人たちが沢山いて、自分もああいう大人になりたい、憧れの存在があるということがとても大事だと思う。そういういろんな大人と子供たちの交流をコーディネートする仕組みがあるといいと思う。何年後かに統合する学校には、他市町村からも自分の子供をここに入れたいと思ってもらえるような学校になればいいと思う。

高橋（衛）
委員

まず大事なものは、第5次計画の達成率等がどうだったのか。そこがわからずして第6次の計画は立てられないのではないかと思います。現状をしっかりと把握した上で、第6次計画を組むべきであろう。スポーツ関係団体の代表としてこの場にいるが、一企業に勤めている人間でもあるので、両方の観点からいろいろお話できたらいいと考えている。

土屋（常）
委員

村山市には豊かな自然があり、すごく人の温かさを感じる。さらに食文化・伝統文化も豊富である。幼児教育に関わる者として、こういった村山市の特徴を子育て中のお母さん方にも伝えられるような教材だとか、あと、活力ある地域コミュニティや郷土愛といったキーワードも重要だと思うので、皆さんとともに夢を語りながら、行政の力を借りてより理想に近づけるように進めていけたらと思う。

平委員

まずは、10年後の村山市の人口はどうなるのかということ。残念ながら消滅可能性のある自治体にも入ってしまった。しかし、本日この場に居て、村山市を何とかしようという若い方がこれだけいるのだとも感じられた。村山市の明るい未来をつくっていくような、そんな計画になっていけるよう一緒に頑張っていきたいと思う。

パブリックコメントの実施が11月から12月に限定されているが、インターネット環境に常設して、いつでも募集してもいいのではないかと思います。

半田委員

我々医療者の目指すこととしては、致命的な疾病に市民がかからないようにすることであり、疾病の予防と疾病にかかった際には適切な治療をするということに尽きると思う。歯科の方では小児へのフッ素塗布であったり、医療の方では胃癌の予防に繋がるピロリ菌の除菌、また最近では帯状疱疹ワクチン助成等、村山市の支援をいただいているものもあり、計画的に達成されていると感じている。今後も新たな疾病に対してどう立ち向かっていくか、市民の皆さんが、健康に過ごすことができるように、我々医師会、

大山委員	<p>歯科医師会とともに協力していきたいと考えている。</p> <p>2020年に村山市に移住してきて、農繁期の収穫の手伝いをしながら、ネット販売のサポートや6次化事業に携わってきた。現在、大山かみやさんの事業継承に向けて動いている。10年後、20年後の村山を少しでも面白いまちにしていきたいというのと、やはり子供たちに面白いと思ってもらえるには、大人たちが面白く、楽しまなければと思いい、事業をさせていただいている。これまでのサポートの中で感じるのは村山市の農業の可能性として、例えば農業体験といった観光農業であったり、以前、さくらんぼサポーター募集のお手伝いをさせていただいたが、移住定住まではいかななくても村山にある資源を活用して、人を呼んで賑わいを維持するというはまだまだ可能だと思う。また、デジタル施策を取り入れた計画づくりの面で、様々な情報を委員の皆で共有していくということも大事だと感じた。</p>
芦野委員	<p>観光資源の要素として蕎麦、バラなどがあって、個人的には非常に面白い市だと思っている。発信力と村山市に来てもらった時にいかに楽しんでもらうかが観光の基本だと思うので、そこを市と民間とで協力して、さらに強化していくことが一番必要だと思う。また関係人口というのも大事だと思っていて、関東在住の方で村山市のファンという方も多いと聞いている。そういった方々に向けて、観光業の基本である情報発信力と、村山市に来た時に楽しんでもらえるよう、滞在する場所の整備も必要だと思う。</p>
高橋会長	<p>計画策定に係るご意見として、第6次計画策定の進め方についてももう少し具体的な説明が欲しいというのと、常時のパブリックコメントというのもあっていいのではというふうなことも頂いたので、この件については事務局の方と検討させていただきたい。時間も超過してきたので本会はここで閉じさせていただければと思う。</p>
(5) 事務局	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5次総合計画後期基本計画の評価と審議会作業部会への提示について報告 ・計画策定段階における市民意見の把握機会の提供について補足

以上